

被爆が召命の原点

《修道齋願六年》(上)



藤屋 健士
(下松市幸ヶ丘)

549

山口市仁保にある御想修道会カルメル会のシスター、長康子さんが先日、修道誓願六十年を迎えた。

カルメル会は十六世紀スペインのアビラの聖テレジアによって創立される。教会のため、人々の救いのために祈りに専念する修道会で、生涯、修道院の囲いの中で祈りと労働の日々を過ごす。

組も二ンクールで高い評価を受けたことは、私の数少ない誇りの一つである。

「いいえ、忘れる努力をしています」と答えると「当時の家族の様子を知っているのは、亡くなつた際、葬儀に参列した親族から「康子ちゃん、被爆体験について書きましたか」と問われる。

人々に与えて下さったことに、ただ頭を下げるほかない」と話された。

the first time in history that the United States has been involved in a war of aggression against another nation.

め全国に九つの修道院がある。

シスターの原爆体験記

原爆体験記

長 康 子



A color photograph of Fr. John and Sr. M. Therese. Fr. John, on the left, is wearing a light blue clerical shirt and dark trousers, sitting with his hands clasped. Sr. M. Therese, on the right, is wearing a black habit with a white veil and a white flower crown, smiling. She is holding a large bouquet of pink, red, and white flowers tied with a red ribbon. The background shows a room with wooden paneling and a framed picture on the wall.

白浜司教とシスターの長さん(右)

はこの痛ま
しい被爆体
験を、長い
間、言葉に

議な力を感じる。被爆
という苦しみの試練の中でしか得られない貴重な体験を私や後世の

はその中に生きる」と。カルメル会は今回「原爆体験記」の再版を決められた。